

データに見る初年次学習の重要性 －東京理科大学における調査から－

山本 誠 氏 (東京理科大学 副学長・教育開発センター長)

講演概要 東京理科大学では、入試成績、GPA、履修・出席履歴データ等に基づいて、全学生の入学から卒業に至る学力変化、成績が不振な学生の特徴について調査している。この結果、初年次の学習がその後の大学生活を決定していること、初年次6月第1週の出席状況が成績不振を特徴付けていることが明らかとなった。本講演では、本調査の経緯・結果の詳細について説明するとともに、この結果を受けて初年次学生に対して実施している各種対策を紹介する。

2016年12月1日(木) 16:00－18:00

場 所：名古屋大学東山キャンパス 文系総合館 5F アクティブラーニングスタジオ

参加申込：下記ウェブサイトよりセミナー参加申込をお願いいたします。

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seminar/seminarform.html>

○いただいた個人情報は、本企画運営の目的にのみ使用いたします。

○ご来場の際には、できる限り公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。
構内駐車された場合の用務証明書発行はいたしかねますので、ご了承ください。

お問合せ先：info@cshe.nagoya-u.ac.jp Tel: 052-789-5696